



9月保育所だより

令和4年8月31日
桑折町醸芳保育所

8月に入り、全国的に新型コロナウイルス感染者が急増し、連日過去最高の感染者数を示しています。福島県でも8月19日の感染者数が3,584人と過去最高の数字を示し、その後高止まりの数字が続いています。今年は3年ぶりに行動制限がない夏休みのため、感染拡大地域への移動や感染拡大地域からの人の流れが多くあり、9月に入るこれからも注意が必要となってきます。

新型コロナウイルスの推移を見てみると、丁度1年前はデルタ株が全国的に広がっていました。それがやがて落ち着き、数ヶ月後にBA2が広がり、現在は、BA5が主流で全国に広がっています。沖縄ではBA2.75（通称ケンタウルス）の株が広がっているという報道もあることを鑑みると、BA5が落ち着いたとしても、今後BA2.75が猛威をふるうことも考えられます。変異を続ける新型コロナウイルス感染症、なかなか終わりが見えないというのが正直なところではないでしょうか。

保育所では、7月以降「警戒レベル」を設定し保育の仕方を見直してきましたが、子どもたちが出来ること、また子どもたちに出来ることも限られています。そういった意味でも保護者の皆様からの情報、そして保護者の皆様の感染予防意識によるところが大きいのが現実です。今後も新型コロナウイルス感染症を正しく恐れ、これまで以上にアンテナを高くし、保育所運営に努めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、9月は暑さが一段落して、戸外で活動しやすい季節になります。体をいっぱい動かす戸外遊びや散歩を楽しみながら、体力そして病気の免疫力をつけてまいります。また、季節の草花や虫などに気付いたり、身近に感じたりして、五感を通して秋の遊びへと移行していきたいと思えます。

<今月の保育の目標>

0歳児

- 安定した生活リズムで一日を心地よく過ごす。
- 戸外で自然に触れたり、たっぷりと身体を動かしたりして遊ぶ。

1歳児

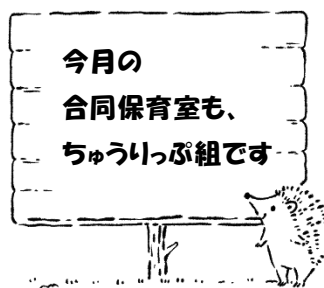
- 手洗いを丁寧に言い、清潔に過ごす。
- 秋ならではの自然に触れたり、感じたりしながら散歩を楽しむ。
- 衣服の着脱や食事など、身の回りのことを自分でしてみようとし、できたことに喜びを感じる。

2歳児

- 身近な自然を感じたり、季節の移り変わりに触れたりしながら遊びを楽しむ。
- 簡単な身の回りのことを自分からしようとする。
- 友達と関わる中で、一緒に遊んだり、簡単なやりとりをしたりすることを楽しむ。

<9月の行事予定>

- 2日(金)運動遊び教室(さくら組)
- 9日(金)運動遊び教室(ひまわり組)
- 16日(金)交通教室(さくら組)
- 27日(火)避難訓練
- 29日(木)誕生会



<10月の主な予定>

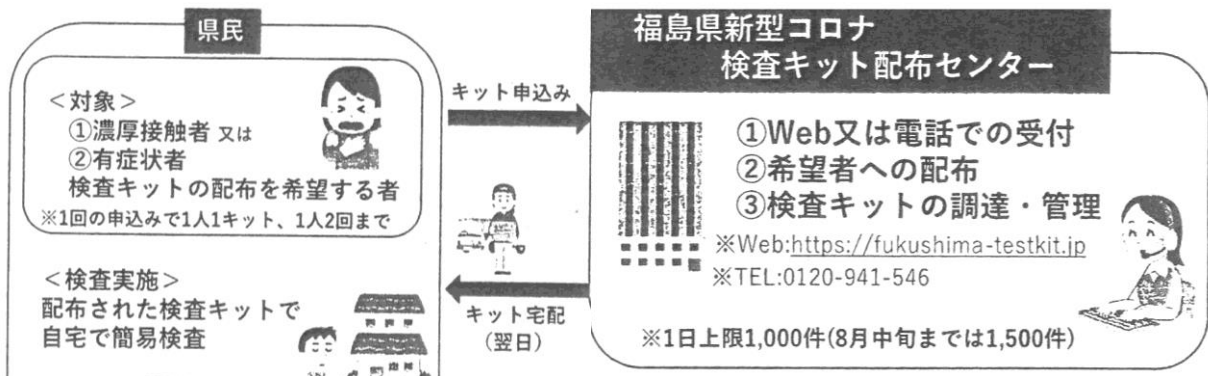
- 3日 内科健診
- 12日 歯科健診
- 19日 尿検査
- 25日 避難訓練
- 27日 誕生会
- 31日 ハロウィンパーティー

< 保育所からのお知らせ・お願い >

【新型コロナウイルス濃厚接触者の待機期間について】

現在、濃厚接触者の待機期間は、陽性者と最終接触があった日の次の日を1日目とし、7日間から**5日間に短縮されました**。ただし、2日目と3日目の抗原定性検査キットを用いた検査で両日陰性が確認された場合は、3日目から待機解除となります。

8月に保育所において濃厚接触者となったお子さんには、検査キットを2本お配りしましたが、今後は、検査キットの確保が困難なことから、**1本のみ配布となります**。2本目が必要な方は、下記の「**福島県新型コロナ検査キット配布センター**」へ申込みをする等して、準備してください。



なお、同居家族が感染した場合、濃厚接触者となったお子さんの待機期間は、感染者と隔離できている場合であれば、上記同様5日間。**隔離できない場合は、感染者の療養解除日を最終接触日として、そこから5日間の待機となり、15日間となります。**

【保育所ホームページについて】

日々の保育所の様子や保護者の方に向けたお知らせを月・水・金曜日に更新しています。ぜひ、ご覧ください。

[桑折町醸芳保育所] 検索 > 保育所の様子 > 令和4年度 > ○○月 > ○○月○○日

【上履きの準備について】

ちゅうりっぷ組、すみれ組、ゆり組のお子さんは、夏場利用しなかった上履きを9月から使用しますので、持ってきてください。

< 各クラスより >

たまご組

朝からおひさまがきらきらと輝く暑い日は、テラスに出て湯水遊びを楽しみました。最初のうちは、裸になると泣きだしていた子ども、何度か入るうちに楽しさを覚え、タライの中に入って、まるでお風呂のようにつるぐ様子も見られました。湯水遊びができなかった子たちは、室内でペットボトルや大きな袋に冷たい水などを入れて、冷たさを感じたり、水が揺れる感触を楽しんだりしました。

だんだんと夏の疲れが出てくる頃なので、一人一人の体調に合わせ、ゆったりと過ごしていきたいと思います。



ちゅうりっぷ組

8月は気温が上がり、水遊びをすることができました。初めての水遊びでは、ちょっぴり緊張して泣いてしまったお友達もいましたが、回数を重ねるごとに慣れてきました。自分からビニールプールに入り、お風呂のようにつかって楽しむ子、水に浮くおもちゃをすくうことに夢中な子など、思い思いに水遊びを楽しみました。9月は残暑に気を付けながら、戸外遊びや散歩に出かけ、自然に触れる機会をつくっていきたいと思います。



すみれ組

8月は、たくさん水遊びをすることができ、初めはビニールプールやタライの中に足を入れるのを怖がっていたお友達も、少しずつ水に慣れ、頭から水をかぶっても泣かずに遊べたり、水の中にずっと座って遊んだり、とても楽しんでいました。

秋に向けて涼しくなってくるので、草花や虫など秋の自然に触れ合えるよう、戸外でたくさん遊びたいと思います。

ゆり組

8月は暑い日が続いたたくさん水遊びを楽しむことができました。回数を重ねるごとに、ビニールプールの中に腹ばいで入れるようになったり、水鉄砲を飛ばせるようになったり、泡遊びで泡の感触を楽しんだりといろいろな楽しみ方ができるようになりました。所庭で遊んだときはセミを捕まえ、間近で聞くセミの声にびっくりしていました。夏ならではの経験を重ね、一回り大きく成長したと思います。

今年の夏は暑かったので、暑さの疲れが出てくる時期です。季節の変わり目の体調の変化に気を付けながら9月はゆったりと過ごしていきたいと思います。



ひまわり組



暑い日が続き、毎日プールでの水遊びを楽しむことができました。初めの頃は、顔に水しぶきがかかると「いや！」「ダメ！」と言って大騒ぎしていましたが、段々と水に慣れてくるとホースからのシャワーの水を怖がらずに、シャワーに立ち向かってくる子どもや水鉄砲を上手に使って遊んでいました。お化けの的に狙いを定めてシューッと水を飛ばしたり、保育者に向かってビューッと放水したりして楽しんでいたひまわり組です。登所後「プール入る？」と、子ども達の声が聞かれ「今日はプールお休みかなあ～」と話す「えー!!」と残念がっていました。生活面では、プールに入る前と後の着替えを保育者に手伝ってもらいながら、頑張って取り組む姿が見られました。

さくら組



絵本や手遊び(すいかのめいさんち)などから、すいか割りを楽しみにしていた子ども達。本物のすいかを触ってみて「おも〜い!」「大きいね」と色々なことを感じたようです。水遊びでも、ワニ歩きや貝拾いなど、プールの中に入って遊ぶことを楽しんでいました。絵の具を使った色々な遊びも経験し、感触を楽しんだり、色に興味を持ったりする姿も見られました。最近では、保育所夏祭りに向けて、ジュース・おみこし・うちわなど、色々なものを作ったり、おまつりの BGM に合わせて太鼓を叩いたりして遊んでいます。暑い夏ももうすぐ終わりですが、まだ暑さが残る時期なので、体調を整えてすっきりと過ごせるといいですね。

家庭生活ポイント 「生活リズム」「あいさつ」「読書」・・・より 子どもが大人になる未来の世界から考える

「今の子どもが本当に必要な教育」③

「認めること」は「考える力」を育むプロセスの一つ

「考える力」を育むためにもう一つ重要なことは「子どもを認める」ことです。子どもが「これをやりたい」と考えたら当然その気持ちを認め、やらせてあげることが大切です。

非認知能力は「遊び」で伸びる

「考える力」を育むためには、経験を積ませることと、その子を認めることが不可欠ですが、経験を増やすのに効率的な仕掛けが「遊び」です。遊びはとても自主的な行動です。自分で創造力を働かせて、自分なりの遊び方を見いだす。そしてその遊びを次々に発展させて行ったり、集中して遊んだりと言った、良い連鎖反応が生まれます。

最近では、「小学生になるまでに読み書きをある程度習得すべき」という考え方が一般的です。しかし、就学前は勉強する術を無理に習得させなくても、たくさんの「遊び」の経験を積んで、「考える力」を伸ばすことに焦点を当てた方が良いのではないのでしょうか。子どもは、興味を抱けば、驚くべきスピードで物事を習得します。そして、実は、「就学前からの親の指示で読み書きを嫌々習っていた子ども」と、「就学後に自発的に読み書きを学んだ子ども」では、後者の方が無理なく読み書きを習得できるのです。

ある調査によれば、就学前に認知能力育成を重視した子どもは、非認知能力育成を重視した子どもよりも、学力は高い傾向が見られました。しかし、その学力の差は8歳ごろには差異が見られなくなることも報告されています。一方で、幼児期にどれだけ非認知能力を育んだかの差は、大人になっても簡単に埋められないことが指摘されました。この調査結果は、学力は8歳以降の努力でいくらでも差をつけることができますが、非認知能力は大人になって伸ばそうと思っても難しいということの意味しています。小学校に入学する6歳までの時期に、学力などの認知能力を育む努力をすべきか、非認知能力を育む努力をすべきか、それぞれの考えがありますが、私は、非認知能力を伸ばすことに注力していきたいと考えます。